OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学報　第235号　2013年2月12日

OCHADAI GAZETTE Spring, 2013

写真：明庭真菜美(生活科学部人間生活学科2年)

汝自らを知れ

CONTENTS

TOPICS

学長からのメッセージ…… 1-2
- 新しい年を迎えて、卒業生へのメッセージ

学生のアクティビティ…… 3-4

教員紹介…… 5
- 松田　雄二先生
（大学院人間文化創成科学研究科自然・応用科学系）

卒業生紹介 …… 6
- 堀江　敦子さん
（お茶の水女子大学附属高校卒）

附属学校園からのお知らせ…… 7-8

キャンパス点描…… 9-10
- 宮城県気仙沼市教育委員会との相互協力に関する協定締結記念特別講演会を開催しました
- JICA青年研修「アフガニスタン初中等理数科教育コース」を実施しました
- 公式facebookが一周年を迎えました！
- 公式Twitterがオープンしました！

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学長からのメッセージ

新しい年を迎えて、卒業生へのメッセージ

‘gnothi seauton’「汝自らを知れ」。ギリシャに伝わるこの箴言は様々に解釈されてきた。例えば、自らの分を知れ、無知を自覚せよ、魂のありようを知れ、自らが死すべき者であることを知れ、自らの心の内を吟味せよ、汝のあるところのものになれ、などと。

「自ら」とは何か、そして「知る」とはどういうことかによって、この箴言の解釈は多様にならざるを得ない。自分は自分にとって最も遠い存在である、ともいわれるように「自ら」は必ずしも自明ではない。それは、「知る」についても同様である。自分を「知る」その知り方は他者を「知る」こととは異なるに違いないし、目の前の物を知ることと、法則や原理を知ることとは同じではない。

大学教育の特色は、自分というこの謎めいた存在を問いつつ練磨し、同時に「知る」ことの多様な在り方に触れながら、ものの知り方や探究の仕方を学び、試み、新たな知を発見することにある。しかもこの二つは相互に関わり合っている。自らを問うことと知を探究することとは根底的には相関しているのである。省みれば私たちは自らが多面的に存在していることに気付く。それと同様に、私たちを取り巻く世界も探究の仕方によって異なる姿で現れる。その多様な姿を見極めようと試みるのが学問を志す者に求められる基本的な姿勢なのである。そして、自らを問い練磨し知を探究することを目指すこの姿勢は、校歌にも謳われている本学の伝統でもある。

みがかずば　玉もかがみも　なにかせん
学びの道も　かくこそありけれ

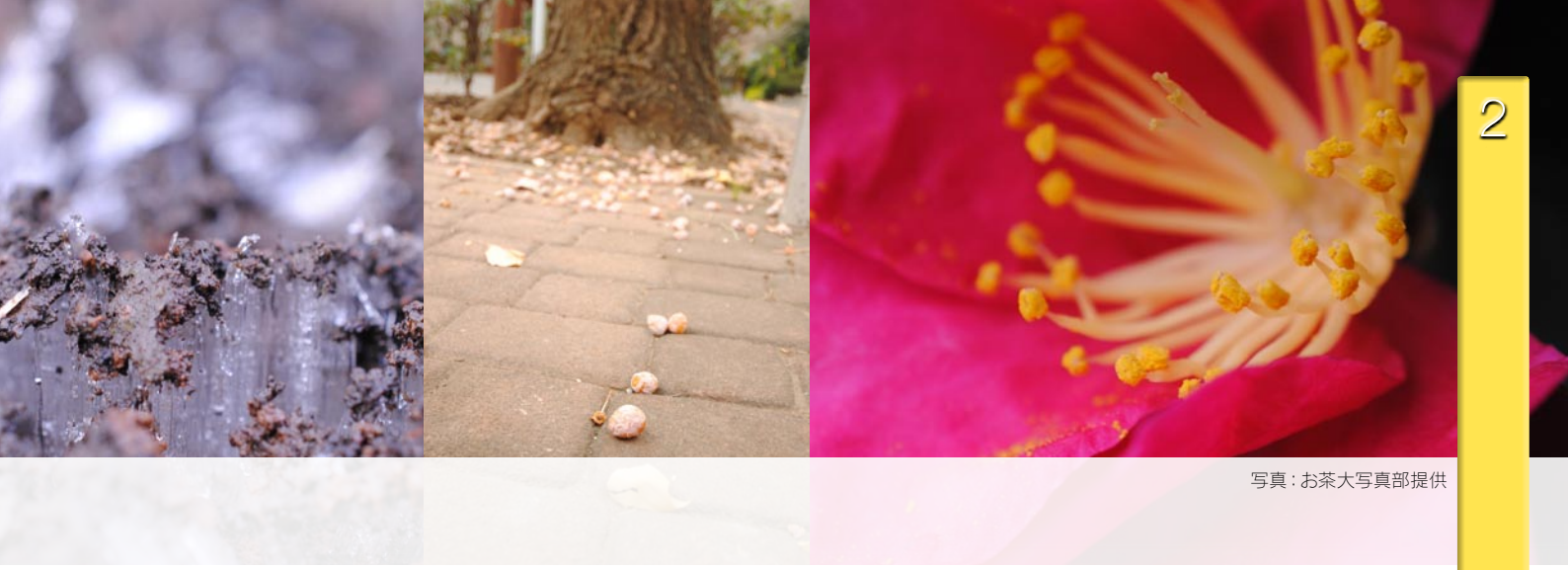
著しく流動的で見通しのきかない現在の社会的、国際的状況を考えると、自らの在り様を深く意識し、ものごとを多面的かつ多様に理解する知的な能力はことのほか重要である。本学独自の教育システムである「文理融合リベラルアーツ教育」と「複数プログラム選択履修制度」による専門教育、そして「女性リーダー育成プログラム」は、そうした知的な能力を身につけることを意図して設計されている。

まず、「文理融合リベラルアーツ教育」は、21世紀の学問のあり方を探究する試みでもあり、そこでは伝統的な専門の別を前提とせずに身の回りに課題を発見し、解決の手法を学び検証する。具体的な事象それ自体には当然のことながら文系理系という区別はなく、様々な要素が内包されているのであり、同じ事象が、アプローチの仕方によって姿を異にして現れる。したがって、物事をできるだけ正しく理解するには多様な見方が必要なのであり、それに気付くことが学問への第一歩となる。

そして、このリベラルアーツ教育を通していわば複眼的な視点を身に付けた後の専門の習得方法が「複数プログラム選択履修制度」である。この制度では専門的知識の履修方法に三つの選択肢があり、一つは、主たる専門をより深く学ぶ方法、他は、特定の専門に加えて、関連する他の専門を履修するか、あるいは複合的に他の領域を学ぶ方法である。この制度は、学生の主体性を尊重しているだけでなく、新たなテーマや新たな専門分野をも開拓する学生の創造力と自律性を前提としている。

さらに、こうした学士課程の教育システムに加え、優れた学生がこれまで以上に社会で活躍することを期待した女性リーダー育成プログラムも進行中である。

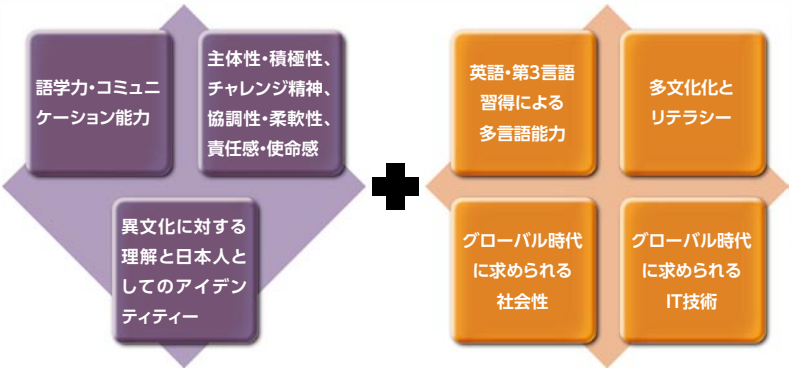
たとえば、「グローバル女性リーダー育成」の取り組みは、2012年度に文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」として採択された教育プログラムであり、国際性の強化を目指すこの事業の実施に当たって、本学では、語学力の強化に加えて、とくに文化の多様性を実践的に理解する力の涵養や専門的知見を発信する能力の訓練を重視



写真：お茶大写真部提供

している。この場合にも、本学の教育方針が有効に作用するはずである。

「お茶大型グローバル人材像」



「グローバル人材育成推進会議」の人材像

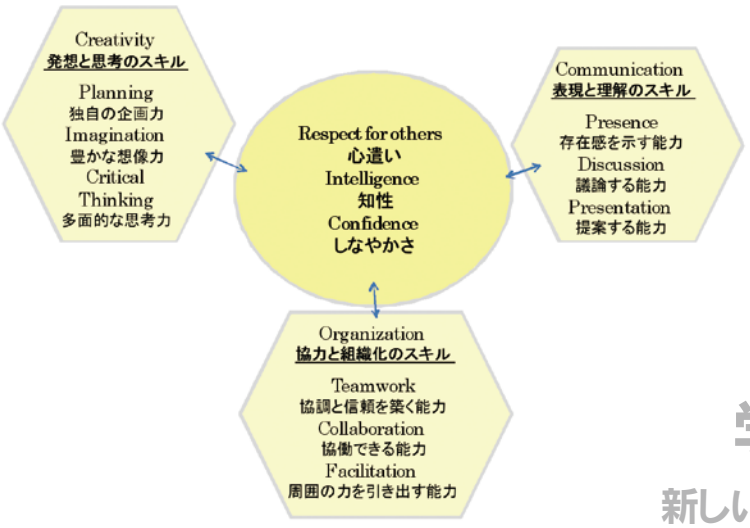
また、このプログラムは、国立の女子大学の使命としてこれまで実施してきた「女性リーダー育成プログラム」の国際化バージョンでもある。

本学のリーダー教育では、その理念を「心遣い」「知性」「しなやかさ」とした。

リーダーという存在が組織の先頭に立って権力を行使するだけの存在ではなく、自らが属する場を担い機動させ、新しい価値をも創造しようとする存在であるとすれば、常に自らを問い、省み、そして他者に眼差しを向け理解しようと努める「心遣い」は不可欠である。また、高等教育機関に学ぶ者としては、確かな専門的知識を習得し「知性」を高める努力が必須である。ただしその知は、課題解決の道を探究する確かな知であると同時に限界をも意識した知でなくてはならない。先の東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故は、私たちに科学的知の限界を強く認識させた。知を駆使し事態に対処するだけでなく、そこには避けられない限界があることも私たちは意識していなくてはならない。そして、この意識こそむしろ課題に対する柔軟な対応と新たな知への挑戦を可能にする。このような知を携えて、それを力とし、自信をもって物事に柔軟に対処する力が「しなやかさ」である。

他のものに心を向け、自らの知を力とし、これを基盤に自信をもって物事に適切に対応できる柔軟性を培うことが本学のリーダー育成の要であり、その基盤は自らを磨き高めることにある。そしてそれはまた「自らを知ること」でもある。

「リーダー教育の理念」



この春、この学び舎から社会へと飛び立つ卒業生、修了生には、このように特色ある本学の教育によって培われた自らの知を誇りとし、自信をもって、それぞれの力を社会で開花させ、自らの未来と社会を輝かせてほしいと願い、心からのエールを送ります。

2013年1月
学長　羽入　佐和子

学長からのメッセージ

新しい年を迎えて、卒業生へのメッセージ

学生のアクティビティ

第63回徽音祭「百茶繚乱」を開催しました

本年度の徽音祭は11月10日（土）・11日（日）の2日間にわたって開催いたしました。無事、盛会のまま終えられましたこと、徽音祭に関わられたすべての皆様に対し御礼申し上げます。

さて、本年度の徽音祭は例年に類を見ない来場者数を記録できたうえに、お茶大生が一丸となって徽音祭を作り上げていることが感じられるものでした。パンフレットは2日目の昼頃には完売し、強風や寒さ、雨といった悪天候にも関わらず、開門前から閉場まで、2日間で約2万人、老若男女を問わず、絶えず多くの方にお越しいただきました。

学外の多くの方にもご好評頂いた徽音祭ですが、今年は学内の90団体に参加していただき、私ども徽音祭実行委員と一緒に徽音祭を大いに盛り上げていただきました。後日、集計いたしました来場者アンケートを見ると、「面白かったステージ企画」として「お茶っ娘決定戦」という学内生が参加する企画が大変好評価をいただきました。また実行委員だけでなく、出店している学内生の来場者への対応もすばらしかったという意見もあり、実行委員だけでなく、学内生が一丸となって徽音祭を作り上げていると来場者の方々にも感じていただけたようです。

今回の徽音祭のテーマは「百茶繚乱」。おしとやかなお嬢様、勉強一筋といった世間のお茶大生に対する評価がある一方で、世間には知られていないお茶大生一人一人の華やかな個性がある、という意見から発しました。それぞれの「お茶大生らしさ」を発揮できる徽音祭、百花繚乱に咲き乱れるお茶大生を感じていただけるような徽音祭を目指して邁進して参りましたが、OCHADAI GAZETTEを読まれている皆様はどのように感じられたでしょうか。もちろんお茶大生の個性・魅力のすべてを徽音祭のたった2日間でお伝えすることは不可能ですが、少しでもお伝えすることができたならうれしい限りです。また、学内生は徽音祭を通してそれぞれが楽しい思い出やかけがえのない友情を築かれたことと思います。今年は各学科の1年生の出店がとても多かったのですが、徽音祭やその準備等を通じてよりよい関係が結ばれたなら私ども委員といたしましても幸いです。

当日はもとより準備の段階から、様々な方々にお世話になりました。最後に今一度、皆様のご理解・ご協力のおかげで無事、徽音祭を例年以上の盛り上がりで終えられましたこと、篤く御礼申し上げます。

（第63回徽音祭実行委会委員長　文教育学部3年　中山翠）

新お茶大グッズ PR奮闘記 in 徽音祭

facebook に載せる写真のモデルもインターンシップ生です

2012年11月10日(土)、徽音祭初日に、タンブラー、防犯ブザー、折りたたみ傘がお茶大グッズに新たに加わりました。タンブラーは徽音祭限定商品とあって事前予約から大盛況、当日もインフォメーションプラザ前の販売所は多くのお客様で賑わいました。

今回の新お茶大グッズは、企画から販売まで、広報インターンシップの学生が関わって作った初めての商品です。広報インターンシップ生3ヶ月間の奮闘記をお送りします。

企画始動―今夏インターンシップにて

8月27日(月)、今日から1週間の2012年度広報インターンシップが始まりました。2期生である私達3名に課せられたテーマのひとつは「徽音祭で発売する新しいお茶大グッズの提案」でした。その日から5日、調査と話し合いを重ねて企画したグッズはタンブラーと防犯ブザー。最終日には、提案した背景や販売方法についてプレゼンテーションを行いました。

実現へと動き出したのは9月に行われた広報会議でのこと。色展開や価格に関しては、デザイナーの伊藤透さんや生協の方との話し合いに参加し、意見を加えていきました。結果、私たちの提案したタンブラーと防犯ブザーに折りたたみ傘を加えた3点が、秋の新グッズとして発売される事が決まったのです。しかし、これはまだまだ序盤。次に私たちに課せられたテーマは「新グッズPRをどのように展開し販売に結びつけるか」でした。

販売に向けて―秋深まる日々、新グッズPRのため奔走する

後期に入り、私達3名に広報インターンシップ1期生3名を加えたインターン生6名と、大学側から広報チームの職員、坪田先生が加わり、お茶大グッズPRチームを結成しました。

徽音祭当日まで1ヶ月を切った中、私たちが会議で提案した「学内」「SNS」「徽音祭当日」のPR3本柱に基づき、ほぼ毎日意見交換を重ねながらプロジェクトを進めました。

徽音祭前日には、facebook に私たちの手書きコメントを掲載しました

学内ではビラを配り、学生に直接PRしていきました。そして、最も力を入れたのがSNSを利用した活動です。facebookでは、限定販売のタンブラーの事前予約受付など、12日間に渡るお茶大グッズ関連記事の更新で、徽音祭当日まで盛り上げていきました。タンブラー予約分50個は早々に完売、お茶大facebookページへの「いいね!」の数もこれまでにない伸びを示しました。

秋晴れの徽音祭―大盛況のインフォメーションプラザ前

徽音祭当日の売り場の様子

ついに迎えた徽音祭当日。インターン生が店頭に立ち、呼び込みや接客を行いました。「facebookで素敵なグッズを見て、30年ぶりに母校に来たんです」「お茶大志望なのでお守り代わりにグッズを買いにきました!」などの嬉しいお声も頂き、寒さも吹き飛ぶ幸せな時間になりました。タンブラーは1日目のお昼過ぎに見事完売、他の商品の売れ行きも昨年以上で、徽音祭でのグッズ販売は大成功をおさめました。

今後の抱負―3ヶ月間を振り返って

広報活動は「Love me」、社会の理解を促し関係を向上させる行為だとインターンで学びました。そのためにも広報パーソンは対象を深く知ることが不可欠です。私たちは今回の活動を通してより深くお茶大を知り、さらに好きになりました。私たちは今後もお茶大PR活動を繰り広げていきます。これからの活動にもご期待ください!

広報インターンシップ1期生
御所名麻希子(文教育学部人文科学科2年)
田代恵理子(文教育学部言語文化学科2年)
センシイ(文教育学部人間社会科学科2年)

広報インターンシップ2期生
小野なつみ(生活科学部人間・環境科学科3年)(総文責)
菊池瑠梨子(文教育学部人文科学科2年)
栗田始雪(生活科学部人間・環境科学科1年)

教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科自然・応用科学系准教授の松田雄二先生をご紹介します。松田先生は、大学院ではライフサイエンス専攻人間・環境科学コース、また学部では生活科学部人間・環境科学科にご所属です。

お茶大の自由な空気と時間を、是非楽しんでください。

Matsuda Yuji
松田　雄二

Q.ご出身、ご経歴などについて教えてください

生まれは埼玉の北坂戸という町で、小学校から東京の荻窪で育ちました。中学、高校は国立にある桐朋学園という中高一貫校で過ごし、その後東京大学に入学、大学では建築を専攻し、修士課程まで修了したのち設計事務所に就職しました。その事務所で病院や高齢者施設を設計しているうちに、もう少しいろいろ勉強したいと思うようになり、東大の大学院博士課程に戻り研究を再開しました。その後東京理科大学に助教として勤め、この2012年4月からお茶の水女子大学に准教授として呼んで頂きました。

Q.なぜ建築を専攻されたのですか?

小さいときから、ものをつくることが大好きでした。中学高校ではブラスバンドでフルートを吹いていたのですが、音楽もものづくりに通ずるものがあります。それも、ひとりでは無くさまざまな個性を持った人たちと「音楽」という一つのものを作ってゆくことは、とても刺激的でした。

そんなこんなで大学の進学先を考える際、実は音大に行きたいと思っていたのです。でもそこまで才能もないし、なんだか食べてゆくのも大変そうだなあと思い進路について悩んでいたところ、修学旅行で京都や奈良に行く機会がありました。そこで古いお寺や仏像を見ているうちに、ああ、建築っておもしろそうだなあとふと思い、建築を勉強しようと思うようになりました。

Q.研究の内容と、なぜそのような研究をするようになったのか、教えてください

建築の設計について、特に障害者や高齢者など、「普通」という視点では捉えることの難しいニーズを持ったユーザーのための建築設計について研究しています。現在は、特に視覚に障害を持った方の歩行環境や、身体に障害を持った方の居住環境についての調査研究を行っています。

なぜこのような研究分野を選んだかというと、今から思えば大学4年生の夏、1年間アメリカに交換留学した経験がきっかけだったと思います。留学先はカリフォルニア大学アーバイン校の環境デザイン学部（当時）というところで、英語はわりかし得意だと思っていたのですが、はじめの3ヶ月ほどは英語がまったく通じず苦労しました。そのとき、「ことば」という社会的、もしくは文化的条件が異なるだけで、物理的には同一の環境の持つ意味が変わり、ときにはとても使いにくくなることがあることを、身をもって体験することができました。そのような思いもあって卒業論文では聴覚障害の方の、修士論文では視覚障害の方の生活環境について、建築という側面から研究を行い、現在もその延長上で勉強しています。

私の研究は、「障害者」のためのものと言うよりは、マイノリティーの視点から都市や建築を見つめるものだと考えています。「あたりまえ」の環境が、ある視点に立つとまったく「あたりまえ」ではなくなるということを、日々とても新鮮に感じています。

Q.ご趣味などはありますか?

音楽を聴くのが大好きです。クラシックからジャズ、テクノまでなんでも聴きます。また、こどものころから本を読むことが大好きで、今でも毎日1冊くらいは読んでいるのではと思います。古典的な作家では夏目漱石や石川淳、最近の作家では奥泉光さんや水村美苗さんが大好きです。また、須賀敦子さんは、最近文庫で全集が発売されましたが、すべての作品がおすすめです。

そのほかにも、数年前からフィルムカメラに凝りはじめ、最近は二眼レフでも写真を撮り始めました。できれば現像・引き延ばしまで自分でやってみたいと思い機材を買い揃えてしまったのですが、なかなか時間がとれずにいます。

Q.お茶大の印象とお茶大生へ向けてのメッセージをお願いします

お茶大の印象ですが、正直赴任したばかりでよくわかりません。ただ、小規模で学生と教職員との距離が近く、恵まれた環境だと思います。でも恵まれた環境で、自分に刺激を与えハングリーに時間を過ごすのは、実はけっこう大変です。是非、意識的に外に出て行ったり、みんなと違うことをしてみたり、いろいろ試してもらえればと思います。

お茶大生のメッセージということで、松尾由美さんという作家さんを紹介したいと思います。私はほぼすべての作品を読んでいるのですが、最近お茶大の出身だと言うことを知りました。作風はSFとミステリを融合したような不思議な雰囲気なのですが、とても素晴らしいので是非読んでみてください。

文責：飯田薫子
（大学院人間文化創成科学研究科
自然・応用科学系准教授）

ワーク&ライフ・インターン　～通学しながら子育てを体験～

日本では女性の活躍の場が拡がる一方で、継続就業を希望しながら出産で離職する女性もまだまだ多い。今回は、仕事と子育ての両立の現実を知った上で、学生が将来のライフキャリアを描くサポートビジネスを立ち上げた堀江敦子さんに、お茶大附属学校時代の学びやご自身の事業について話をうかがった。

Horie Atuko
堀江 敦子

スリール 株式会社
代表取締役

1989年お茶の水女子大学附属幼稚園入園。2003年附属高等学校卒業。同年、日本女子大学社会福祉学科入学。2007年日本女子大学社会福祉学科卒業。同年、大手IT企業入社。2010年退社、「スリール」を起業。最年少でワークライフ・バランス コンサルタント取得。内閣府のプロジェクトに参加する他、新宿区男女共同参画推進委員も務める。

原点はお茶大附属学校

「私の基盤を作ったのは附属学校の『自主自律』を徹底した自由な教育」と、感謝の思いと共に語る堀江さんは、幼稚園から高校まで15年間を茗荷谷のキャンパスで過ごした。「これをやりなさいと言われた記憶がなく、やり方は先生が教えてくれたけれど、全て自分で決めていました」。幼稚園でも自分で遊びをつくり、中学校では、「男らしく、女らしくではなく、自分らしく」という意味の「ジェンダー教育」を受けた。自主研究では、「児童虐待」をテーマに選び、養護施設を訪ねながらレポートを書き上げた。セピア色のレポート集を手に、「今と全く同じことを言っているんです!」と振り返る。堀江さんが「福祉をやりたい、そして人の意識を変えていきたい」と強く思うようになった原点はこの時代にある。その夢に近づくため、大学は社会福祉学科のある日本女子大学へ進んだ。

卒業後は、「想いを実現するために自分に力をつけたい」と、大手IT企業に就職。社内のワークライフ・バランス推進活動に関わったのをきっかけに、同期たちに職場の環境整備を呼び掛けた。しかし、仕事と子育ての両立に現実感が乏しいまま仕事に追われる仲間たちを見て、「当事者意識を育てるのは学生のうちに実情を体験するしかない」と、起業を思いたった。

学生と働くママを結ぶ

2010年、25歳で会社を起し、フランス語で「笑顔」を意味する「スリール」と名付けた。「誰もが笑顔で自分らしいワーク&ライフを実現できるようサポートする」のがミッションだからだ。「仕事をしながら子育てって本当に出来るの？」という学生の疑問や不安への解決策として、共働き家庭で子育てを体験する「インターンシップ」をメインの事業に据えている。プログラムは、学生が保育士の有資格者のもとで研修を受けるところからスタート。36時間の研修後、2人1組体制で同じ家庭に3ヶ月間通い、保育所のお迎え、お風呂、寝かしつけなど子育て全般を体験する。受入れ家庭は月3万円の会員費をスリールに支払い、学生は交通費のみを受けとる仕組みだが、インターンシップ期間中は全員が体験を語り合い、将来を考える「場」が用意されている。

これまでに参加した学生は首都圏30大学の約150人。受入れ家庭は約50世帯を数える。学生には「キャリア支援」、家庭には「子育て支援」、社会には「少子化対策」という好循環の橋渡し役を担うスリールの活動は、起業3年目にしてさまざまなメディアに取り上げられ、注目をあびている。

「自分軸」を持って笑顔で

堀江さんは3人姉妹の末っ子だ。根っからの子ども好きに加え、妹や弟が欲しくて中学生時代にベビーシッターを始めて以来14年も続けてきた。起業して1年目は、その経験をいかしながら、インターン生育成プログラムの充実に全力を注いだ。「しっかり根を張れば、いつか大木にもなれるし、花も咲く」と思う。企業や社会人向けの研修の依頼も多い。しかし、堀江さんにとって、インターンOBが社会人になりイキイキと活躍する姿を見るのが何よりの喜びであり、事業を続ける大きな糧になっている。

スリールの目下の悩みは、インターン生受け入れを希望する家庭の増加に学生数が追い付かないことだ。そのため、堀江さんは機会があれば大学での講演に出かけ、活動への理解を得るための努力を惜しまない。また、学生のチームミーティング会場を確保することも毎回の課題だ。

座右の銘は「軸を持って流される」。ただ流されていると漂流してしまうけれど、自分軸さえもっていれば、周りが導いてくれると思う。明るい笑顔でいつも感謝の気持ちを忘れない堀江さんを応援する人は多い。

文責：坪田秀子(学長特命補佐)

わたしのオフタイム

高校時代、「輝鏡祭」でミュージカル上演に燃えて以来、趣味はミュージカル鑑賞、そして旅行。

最近はなかなか行けないので、自宅でヨガをしたり、キャンドルを炊いたりと自分と向き合う時間を大切にしている。ボディトリートメントでリラックスすることも。

附属学校園からのお知らせ

附属幼稚園便り

正門横の畑を活用して：実りとつながりを味わう生活

平成２４年度、幼稚園は大学敷地内の畑を活用し、
たくさんの実りと、人と人とのつながりを味わうことができました。
その経過を紹介します。

ここが畑になるの！？！

４月、正門西側庭園の一角に畑ができ、借用申し込みのメールを受信、早速申し込みました。

５月末、保護者ボランティアを募りいざ畑へ。掘り返すと石がゴロゴロ。スコップで掘り起し、石を取り除き、腐葉土や黒土を入れる。気の遠くなるような作業を重ねる中で、少しずつ畑らしくなっていき、畝を作り終えた時には思わず拍手が沸き起こりました。

トウモロコシ畑・カボチャ畑・スイカ畑完成

６月、年長組の子どもたちと種から育てたトウモロコシの苗を植えに畑へ。カボチャやスイカの苗も植えて夢は大きく広がっていきました。夏の日差しを受けぐんぐん大きくなり、カボチャがゴロゴロ！

９月、カボチャ１０個、スイカ２個、トウモロコシは数え切れないくらいを収穫し、幼稚園に持って帰り、皆でおいしく食べました。畑へと向かう道には多くのハーブが植えられており、チョウやトンボ、バッタがやってきます。水やりや草取りに畑へ通う毎日は、虫たちとの出会いの時でもありました。

森光先生との出会い、こどもピーマンとハーブを楽しもう！に参加

森光康次郎先生たち（生活科学部食物栄養学科准教授・お茶大園芸部）の畑が隣にあり、畑仲間です。「よく育ちましたね」と喜びを分かち合い「そろそろ追肥の時期ですね」とアドバイスをいただくこともありました。

７月、森光先生の企画『こどもピーマンとハーブを楽しもう』に年長組親子が参加。大学生の誘導のもと、ハーブの香りを楽しんだり、珍しいこどもピーマンを味わったりし、多くの保護者から「大学の中にこんなに素敵な場所があるんですね」という声が寄せられました。

今、寒さの中で育ち続ける野菜たち

10月末、ケール、ブロッコリーとカリフラワーの苗を植えました。初めての挑戦です。冬の寒さをものともせず、日ごとに大きくなっていく野菜を見ていると、とても励まされる気持ちになります。ゆっくりしっかり育ち続けるその姿は、子どもたちとよく似ているように思えます。

そして季節は冬から春へ。今度は何を育てようか、春の相談がもう始まっています。

キャンパスの中に畑がある大切な意味

幼稚園から離れている場所にある畑ですが、子どもたちの心の中ではつながっている畑です。成長を楽しみに待つ思い、畑へ向かう道中や畑で出会う人々とのかかわり、それらが、うれしいつながりを生み出しているのだと思います。

乳児から大学生までが共に過ごすキャンパスの中に、自然が柔らかく息づき、自然を愛する語らいがひろがる豊かな大学。ここで過ごせる幸せを感じ、今日も畑に足を運びます。

附属学校園での出来事（2012年10月～12月）

【いずみナーサリー】

10月
- JICA中西部アフリカ研修生見学
- 避難訓練（散歩中に大地震想定）
- 保育臨床実習
- 親子で遊ぼう会
- 父親懇談会
- 保護者会

11月
- 「こどもの世界をのぞいてみよう」ECCELL･COSMOSとの連携企画
- 多摩美術大学との協働アート活動
- 保育参観
- 避難訓練（抜き打ち訓練）

12月
- クリスマス会
- 大学との研究会

【附属幼稚園】

10月
- 運動会
- PTA主催バザー「お茶の市」
- 誕生会
- さつまいも掘り（5歳児）萩山郊外園
- 親子で遊ぶ日（4歳児）
- 小石川植物園遠足（3歳児）

11月
- 松野クララ記念歴史に学ぶ会講演会開催　演題「木戸孝允の人柄～その先見性と情緒～」講師：和田昭允（元本学学外理事）先生
- 誕生会
- 創立記念の集い（人形劇団ひぼぽたあむ）
- 創立記念日
- 避難訓練

12月
- 誕生会
- 餅つき
- 終業式･影絵上演「アラジンと魔法のランプ」

【附属小学校】

10月
- 衣替え
- たてわり給食
- 委員会活動（5･6年）
- 避難訓練
- かがみ会バザー
- 郊外園活動さつまいもほり（4･5年生）
- 授業研究会

11月
- 委員会活動（5･6年）
- 音楽会
- 避難訓練<2次避難あり>
- 創立記念日
- 郊外園活動大根ほり（1～3年生）

12月
- 委員会活動（5･6年）
- 上学年マラソン大会
- 終業式

【附属中学校】

10月
- 学期末テスト
- 前期終業式
- 秋休み
- 後期開始
- 1年生郊外園
- 身体計測
- 3年生学力テスト
- 生徒会選挙
- 進路保護者会
- 学校説明会

11月
- 公開教室研究協議会
- 学校説明会
- 関附連千葉大（数･美･道）
- 3年生中間テスト
- 講演会･ファミリーの会
- 1年生校外学習（横浜中華街周辺）
- 芸能鑑賞会

12月
- 1･2年生中間テスト
- 中高連絡進学テスト
- マラソン大会
- 保護者会
- 鏡水会プレゼンテーション
- 大掃除
- 冬休み開始

【附属高校】

10月
- 秋季健康診断
- 2学期中間試験
- 3年学力テスト
- 全附連研究大会

11月
- 第63回ダンスコンクール
- 3年学力テスト
- 1年農場実習（サツマイモ収穫）
- 創立130周年記念行事

12月
- 2学期期末試験
- 2年文楽教室
- 東工大ウインターレクチャー
- 1年地理特別授業 ジョイセフ講演会
- 2年卒業生の話を聞く会
- 毛理和子氏講演会
- お茶大キャリアガイダンス
- 2年人権研究会
- 日中高校生交流事業
- 2学期終業式

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

宮城県気仙沼市教育委員会との相互協力に関する協定締結記念特別講演会を開催しました

このたびお茶の水女子大学は、宮城県気仙沼市教育委員会と震災復興に向けた相互協力に関する包括連携協定を締結し、本学の前身である東京女子師範学校時代から培ってきた幼児教育や国際的人材育成、そして気仙沼市が先進的に取り組んできた防災教育やESD（持続発展教育）などを主軸として、気仙沼市の教育の復興と発展のため相互に協力し合うこととといたしました。

協定締結式は2012年11月16日（金）に本学で行われ、羽入佐和子学長と気仙沼市教委の白幡勝美教育長が協定書に署名、取り交わしの後、白幡教育長と及川幸彦市教委副参事による記念講演が行われました。

この講演で白幡教育長は本学に対し「幼児教育、理科教育、国際的人材育成への支援を期待している。具体的には専門家の派遣、教員の相互交流などを考えており、震災で大きな被害を受けた東北から新たな教育モデルの構築を目指したい。」と述べられ、及川副参事からは、「東日本大震災からの教育復興の歩みと未来に向けた教育の展望」についてご講演いただきました。

講演終了後、羽入学長から「1日も早い復興のために、そして未来を描く新たな教育環境の構築のために、共に取り組み、両機関がさらに発展することを心から願っております。」と述べられ、また、本学の東日本大震災被災地支援プロジェクトチームリーダーの耳塚寛明理事・副学長からは「復興に向け、大学でなければできないことを息長く続けたい。ESDなど気仙沼市の教育が持つ強みと震災の経験を学び、新たな教育モデルを全国に発信することもお手伝いしたい。」とコメントされました。

本学はこの協定を通じて、防災教育やESD、災害への備えなどで気仙沼のノウハウを学ぶことを期待しているところです。

公式facebookが一周年を迎えました！

2013年1月17日(木)に、本学の公式facebookが一周年を迎えました！

facebookとは、友人や同僚とインターネット上でつながり、文章や写真の投稿を通して気軽に交流することができる世界最大のサービスです。

お茶大では在学生や卒業生の交流の場として活用しています。本学のfacebookページは、大学ホームページの更新情報やイベント情報の告知に加えて、facebook独自の連載記事を持っていることが特徴です。

連載記事の一つである「お茶大豆知識」では、お茶大にまつわる雑学をご紹介しています。例えば、昨年11月29日の創立記念日には、本学の校章の由来となった植物「チャノキ」について取り上げました。また現在は、2013年のNHK大河ドラマ「八重の桜」との関連について興味深い特集を組んでいます。

また、広報インターンシップ2期生が考案した連載「お茶っ娘Activity」では、学生が記事を書いて、サークル活動の紹介やキャンパス内での活躍を広くお知らせしています。

開設から10ヶ月が経った2012年10月18日（木）には、お茶大のfacebook記事を定期的に読み、記事に共感したことを伝える「いいね！」ボタンを押した「ファン」が、1000人を越えました。お茶大生、卒業生、教職員へ浸透してきたことが伺えます。

facebookのアカウントを持っていなくても、お茶大のページを閲覧できます。まだ見たことのない方、興味をお持ちの方は、一度チェックしてみてください。

facebookを通してお茶大生、卒業生、教職員、一般の方々の交流がより活発になりますよう今後も更新を続けていきますので、ぜひご覧ください！

facebook http://www.facebook.com/ochadai

JICA青年研修
「アフガニスタン初中等理数科教育コース」を実施しました

お茶の水女子大学は、独立行政法人国際協力機構（JICA）の委託を受け2012年10月2日（火）～16日（火）に青年研修「アフガニスタン初中等理数科教育コース」を実施しました。

2002年度から本学では、JICAの委託を受け、JICA研修事業を通して、アフガニスタンの教育再建に向けて支援を行ってきました。アフガニスタンへの教育支援は、今年度で10回目となり、今回で累計158名の研修生を送りだすことができました。本年度は、サイエンス＆エデュケーションセンターとグローバル協力センターが連携し、教育局職員や小中学校の教員など、アフガニスタン各地から20名の理数科教育関係者を迎え、教育行政の理解、指導技術向上の双方の面にアプローチした新たなプログラムを開発、実施いたしました。

研修は、羽入佐和子学長の挨拶から開講しました。その後、JICA東京国際センター長花里信彦氏から来賓挨拶がありました。本研修プログラムは、文部科学省への表敬訪問からスタートし、2日目以降は日本で学んだ研修の成果を母国で生かしていただくため、アフガニスタンでも入手可能な身近な教材を使った物理・化学・生物・地学分野の講義と実習が行われました。そして、東京都北区滝野川小学校を訪問、小学校3年生と4年生の理科授業を視察し、その後、東京都北区の教育施設である教育未来館の訪問に続いて、地域の教育行政について理解を深めるため、北区教育長との懇談が行われました。

また、鳴門教育大学にもプログラムの一部、教師指導書を現地で浸透させるためのワークショップを担当していただきました。研修後半では、千葉県館山市にある本学附属の湾岸生物教育研究センターで、アフガニスタンにはない「海」を体験していただき、自然への感性を高めながら、その指導技術の実際についてフィールドで学んでいただきました。

最終日には、JICA東京国際センターにおいて、評価会が行われ、研修生の終了時のアンケートでは、すべての研修項目において目標が達成され、日本の文化と教育現場に刺激を受け、満足度の高い研修であったと評価されました。研修員からは日本で得た指導技術を母国の他の教員に伝えることで、学んだことを実践し、理科教育の改善に貢献したいとの強い思いが伝えられました。

公式 Twitter がオープンしました!

Twitterとは、「つぶやき」と呼ばれる140字以内の短い文を投稿し、自分の近況や意見、感じたことを世界に向けて発信することができるミニブログサービスです。

2012年10月9日(火)に、本学の公式Twitter(ツイッター)がオープンしました。本学のTwitterでは、大学ホームページの更新情報やイベント告知情報を発信しています。それに加えて、在学生や教職員向けの学内情報も多く発信し、facebookとの差別化をはかっています。

お茶大の「つぶやき」に関心を持ち、継続して「つぶやき」を読む「フォロワー」と呼ばれる人の数は、開設初日から100人を越えるなど、大きな反響がありました。現在ではフォロワーの数が600人以上と、私達もびっくりする結果となっています。フォロワーの多くは在学生なので、生協食堂に新メニューが登場した時のお知らせや、定期演奏会、クリスマスコンサート等のサークル活動のお知らせなど、お茶大生にとって身近なニュースがつぶやかれた時に、特に反響が大きくなるようです。

また、一般の方が本学のTwitterを見て、本学開催のイベントに興味を持ち、参加されるなど、徐々に一般での知名度も上がってきています。

Twitterのアカウントを持っていなくても、お茶大のTwitterページは閲覧できます。まだ見たことのない方、興味をお持ちの方は、一度チェックしてみてください。

Twitter独自企画も考案中です。お見のがしなく!

Twitter https://twitter.com/OchadaiNews

（公式facebook･Twitterは、お茶大公式ホームページ左側のバナーからもご覧頂けます）

キャンパス風景
提供:お茶の水女子大学写真部

お茶の水女子大学学報　第 235 号
▽発行日：2013 年 2 月 12 日
▽発　行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1（〒 112-8610）

ご意見・ご感想はこちらまで
学術・情報機構広報チーム
電話　03-5978-5105
FAX　03-5978-5545
E-mail：info@cc.ocha.ac.jp
URL　：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学報「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。

Copyright (C) 2013 Ochanomizu University. All Rights Reserved